



あらためて研究会の原点を考える 地域のポテンシャルを



地域ぐるみ環境 ISO 研究会 代表
多摩川精機株式会社 萩本 範文

産業振興の3つの手立て

地域産業振興のためには3つの手立てが必要です。第1に地域へのロイヤリティ、地域への忠誠心をもった起業家、企業家をつくることです。第2に物づくりの伝統に生産技術の革新運動を仕掛けること、生産性は競争の最大の武器です。第3に新しい地域連携モデルの構築、水平分業、垂直分業の新しい関係、産官学の新しいタイプの連携です。

繁栄には良質なリソースが

具体的に幾つかの挑戦を仕掛けました。工場の生産現場を対象に地域の大手事業所で改善研究会を始めました。会社の中の従業員も門を出れば皆市民です。その地域のポテンシャル(潜在能力)が高まらないと、そして質の良い経営資源(リソース)を受け取らないと事業の繁栄はありません。事業所は地域の経営資源をもらって生きる。そのリソースはポテンシャルの高い所で良質なリソースとなります。ポテンシャルの高い地域に繁栄する事業所は育つのです。

地域に根付く企業として

地域の貧困救済のために生まれた地元の会社には、その場所を移す選択肢はない。であるならば、ポテンシャルの高い地域づくりに貢献することが私の使命であり、会社繁栄のために地域のポテンシャルを高めることを考えなくてはならないと。

3社現場改善研究会から

まず、地域に影響力の大きい大手の事業所と連携することにしました。オムロン、平和時計、後に三菱電機にも参加してもらい、1996年に3社現場改善研究会をつくりました。それぞれの工場の閉鎖的なプライドを取り除き、全ての工場を互いにオープンにして生産技術者の研鑽を積む。同じ地域の市民同志の従業員が地域の事業所のことを初めて互いに知り合う。そして、改善が始まり現場が変わり始めました。

それを手始めに、地域のポテンシャル高揚と人材を地域に貯めていく手段でいろいろな「仕掛け」をつくりました。地域ぐるみ環境 ISO 研究会の設立、開発者のシンポジウムと交流会、飯田 EMC センターの設立と EMC シンポジウムの開催、飯田環境技術開発センターの創立、キャンパスレス大学構想などを皆さんに提案してきました。

地域ぐるみで ISO に 挑戦しよう研究会

その1つ、ISO 研究会の取り組みの意味するものは何だったのか？1997年に「地域ぐるみで ISO に挑戦しよう研究会」を発足させました。エコタウンサロンから生まれ、飯田市を含めて6事業所で始めました。今般の第13回地球環境大賞の受賞も地域ぐるみの連携の重要性が認められたと理解しています。

産官連携の最初のステップとして市役所の ISO 認証を呼びかけました。当時、全国でも早い方でエコタウンの都市として先駆的自治体でできると考えました。また、環境改善の取り組みを役所の命令でやるのではなく市民から持続可能な地域づくりへの発意を引き出そうという目的もありました。

市役所の ISO 自己適合宣言へ

環境 ISO を取得した市役所に今度ではそれを維持する問題が持ち上がりました。ISO を維持するにはお金がかかり自治体で更新するには税金を使うこととなります。そこで、飯田市は自己適合宣言で維持すること

を決断しました。自己満足宣言とならないために研究会は支援し研究会の内部監査員が監査を応援することにしました。

「南信州 いむす 21」も

また、地域内の取引に限定される企業の ISO とは何かという切口で新たな地域内連携を仕掛けました。飯田版の環境改善マネジメントシステム「南信州 いむす 21」です。南信州広域連合に認証者を依頼し実務は研究会が担当しています。これら地域内連携の取り組みは実は人材育成策としても重要です。

自信と誇りを取り戻す

地域振興と言うとシリコンバレー型を無批判に導入しがちです。しかし、この地域における中核となる産業の特質を見極めなければ、その政策は有効とはなりません。そして、地域に蓄積されたユニークな技術を生かし人材と共に活用する地道な努力が求められます。こうした諸策を通して地域の人たちに自信と誇りを取り戻すことが必要なのです。こんな地域にだって皆がアッと驚くようなことができるというような活動が回りまわって地域の振興につながると信じています。(風越山)



通信 60 号にあたり研究会の原点を考えてみました。研究会が評価されているからこそ...。「地域産業史とこれからの地域産業そして人材育成」として今年3月に地元「南信州新聞」に連載されたもののうち「地域のポテンシャルを」の部分がもどす。全文は研究会のホームページに載せてあります。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



環境首都コンテスト

今年は総合第5位でした

持続可能な地域社会をつくることを目的とした「日本環境首都コンテスト 2003」で飯田市は総合5位となりました。飯田市を訪れた、このコンテストを主催する全国10の環境NPOの代表「環境市民」(京都)の枚本育生さんから田中市長が4月27日に賞状を受け取りました。

人口規模別1位、総合4位だった昨年より、人口規模別2位、総合5位と順位が落ちました。となりの県の人口も同じトップの多治見市から学ぶところが多そうです。

第1位	岐阜県多治見市
第2位	熊本県水俣市
第3位	広島県広島市
第4位	愛媛県松山市
第5位	長野県飯田市
第6位	兵庫県尼崎市
第7位	東京都板橋区
第8位	愛知県新城市
第9位	神奈川県大和市
第10位	熊本県熊本市

NPO「環境市民」

<http://www.kankyoshimin.org/>

このコンテストは3年(回)目で質問も年々進化・深化しています。16分野90項目の質問へは回答だけでなく資料添付も必要。さらに上位が予想される場合には現地でのヒアリングでチェックがかかるなどたいへんです。評価の高い分野・項目、低いものと課題もはっきり見えてきます。

飯田市の課題

エコロジカルな交通政策

職員の資質・政策能力の向上

環境行政の総合化・予算

ごみの減量



「環境教育に必要な視点」

三橋規宏さんを迎え研修会

今日はこどもの日。4月23日に小中学校教諭・保育士を対象に環境教育研修会が開かれました。天竜川総合学習館「かわらんべ」が会場。「環境教育に必要な視点」三橋規宏さんから話をしていただきました。「センス・オブ・ワンダー」目を見はり感動する感性。先ず大人である私たちが持ち、地球の危機的状況を身近な子どもたちに正しく伝えたいですね。

アースデー(4月22日)の新聞にエネルギー特集があり、2月シンポジウムで訪れた岩手県葛巻町が紹介されていました。葛巻町は電力需要の185%を風力・太陽光はじめ新エネルギーでまかなう町。今度はエネルギーの使用自体を減らそうとしています。「小学生が主人公。なぜ、省エネが必要か勉強し家に帰って実践してもらおう。役場が呼びかけるより子どもから親に言ってもらおうのが一番の効果。ある意味、発電所をつくるよりずっと大事な仕事」とありました。それほど省エネは難しいということ。環境教育の必要性和重要性を思い知らされます。

飯田りんご並木を紹介

講演の後、三橋さんをりんご並木そして飯田東中学校に案内し、下沢校長や生徒会松島並木委員長からの話を聞いていただきました。その様子が環境コラム「SOS!地球号42」で紹介されています。39に続いて。



<http://www.cuc.ac.jp/~a240129/iso14001/>

BS-japan「グリーン国富論」で

5月24日飯田市が紹介されます



飯田市と不思議な縁のできた三橋さん。「グリーン国富論」という番組でこの地域の環境の取り組みを紹介してくれることになりました。5月24日の放送にむけ5～6日取材です。番組はブロードバンドでも見られます。

<http://www.wbc-tv.com/broadband/index-t-main02.html>

「地球白書」のあとがき

読破はキツイですが、「地球白書 2004-05」を買いました。グローバルに様々な視点で環境を見るすごい教材です。岡本さんの「本書へのコメント」だけでもインパクトがありました。

たとえば、健康によいとされている天然素材である綿のTシャツについても、「棉は世界中の農薬の半分以上を使っている農薬依存型の栽培による典型的な作物であり、生産地の労働者の健康を蝕み、その土地を汚染している」ということはあまり知られていなかった。少なくとも私は認識していなかった。



私の地球白書も5冊目となりました。買って安心するのではなく、じっくり読もうと...

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



第12回環境自治体会議 いっだ会議

皆さんの参加お待ちしております



5月になりました。「環境自治体会議 いっだ会議」の開催の月になりました。屋久島会議から1年、開催まで1か月を切りました。市民の皆さんやさまざまな団体の皆さんによる実行委員会で全体会や分科会を組み立ててきました。より具体的な受け入れ、そして何より飯田の地まで来ていただいた皆さんを歓迎するための準備にいま入っています。まだ申込されてない方、日程調整ができた方、だいじょうぶです。ご案内では4月16日を期限としていましたが、**随時受付**をしています。

いっだ会議のホームページ

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyo/jititaikaigi/index.htm>

申し込みのホームページ

<http://www.knt.co.jp/ec/2004/iida/>

5月26日~28日 飯田で

全国の70区市町村でつくる環境自治体会議は会員の自治体で毎年、会議を開いています。今年は13回目、5月26日(水)~28日(金)の3日間、私たちの信州飯田市で開かれます。



市街地にある「飯田りんご並木」は淡い白い花が終わり葉が実がしっかりとしてきました。半世紀手入れを続ける地元中学生により会議までには摘果をすませ、小さなみどりのりんごの実が皆さんをお迎えます。

27日(木)には10の分科会

ごみは減らせる！

リサイクル(再資源化)からリユース(再利用)、リデュース(減量)への取り組み

地域発！エコ交通

地域における環境マネジメントの

最前線...自己宣言は有効か？

地域共同型エネルギー政策の

取り組み...市民発電・節電所・産業振興

これからの山、森林を考える

水環境の整備と資源としての保全

環境教育

...学校、家庭、事業所そして地域社会で

地域特性を活かしたツーリズム

地域内循環をめざす農業と食文化

人も自然も美しいまちづくり、景観づくり

研究会も大きく関わります

第3分科会、第4分科会は研究会の多摩川精機株、三菱電機株中津川製作所飯田工場で開かれます。この運営・準備の他にも、研究会は実行委員会のメンバーとして関わります。

1・3日目の全体会議が行われる「飯田文化会館」の会場設営、駐車場整理、会場片付け。1日目の交流会の設営・片付け。2日目の懇親会会場「勤労者体育館」の設営・片付けなど。この「いっだ会議」は研究会事業所はじめ多くの皆さんの協力で運営されます。



第3分科の会場 会多摩川精機株



第4分科会 三菱電機株中津川製作所飯田工場

28日には「いっだ宣言」が

全国各地で開催している環境自治体会議は開催地での「宣言」を続けてきました。28日(金)の全体会議では「いっだ宣言」が環境自治体会議の、飯田市の指針として決定されます。



「いっだ宣言」は「環境文化都市」をめざす飯田市の新しい道しるべ。皆さんと「いっだ会議」でお会いできるのを楽しみにしています。りんご並木のこんなりんごの実と一緒に。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



第13回 地球環境大賞 環境市民グループ賞を受賞



私たち地域ぐるみ環境ISO研究会は「第13回地球環境大賞」の「環境市民グループ賞」を受賞しました。授賞式が4月26日に東京の明治記念館であり研究会から6人参加しました。受賞14団体のトップバッターとして研究会萩本代表がフジテレビの村上社長から賞状を受けました。

「地球環境大賞」は産業の発展と地球環境との共生をめざし、環境保全活動に熱心な企業などを1992年から表彰しているものです。フジサンケイグループと日本工業新聞社の主催で毎年行われ、第7回から自治体を、昨年の第12回から大学と市民グループを表彰対象に加え充実してきました。

「南信州いむす21」

地域ぐるみでの活動が評価

14企業(団体)それぞれの取り組み・受賞理由が紹介され登壇でした。研究会の受賞内容は次のとおりです。

長野県飯田市を中心とする南信州地域で環境マネジメントシステムの普及を通じた地域全体の環境改善活動のレベルアップに努めている。研究会メンバーの国際環境管理・監査規格「ISO14001」の認証取得をベースとしたノウハウの地域への還元や、独自の環境マネジメントシステム「南信州いむす21」などを通じ、中小・個人事業者の環境改善活動を支援している。「いむす21」は、研究会が飯田市をはじめ1市3町14村の自治体で構成する南信州広域連合と連携して2001年10月にスタート。現在160事業所が改善活動に取り組み、44事業所が登録証の発行を受けている。

緑豊かな水の惑星として

この賞は(財)世界自然保護基金ジャパン(名誉総裁・秋篠宮殿下)の特別協力も得ています。秋篠宮殿下には賞の創設当初からご臨席を賜っているとのことでした。穏やかなお言葉は「皆様の環境保全への取り組みが一層、広がり、私たちの住むこの世界が、緑豊かな水の惑星として、未永く繁栄していくことを心から願います」と結ばれました。



授賞式に続くレセプションの席では秋篠宮殿下・同妃殿下と目の前で直接言葉を交わすことができました。授賞式の前、芝生の中庭での「お会い」では緊張して遠くから見ているが精一杯でしたが...

りんごの花はきれいでしょうね



先ず「おめでとうございます」と受賞のお祝いの言葉をいただきました。萩本代表からの研究会の取り組みの説明を聞いていただきました。「地域で取り組むことはとても意義がありますね」「子どもたちとの関わりはどうなっているのでしょうか」さらに「りんごの花はきれいでしょうね」そして「これからも皆さんでがんばってください」と笑顔で励まし言葉をいただきました。

環境に取り組む人たちとの毎年の交流。授賞式でも壇上で話す人の方に体を向けて聞かれている両殿下の姿が印象的でした。



「地球環境大賞」はトヨタ自動車株

「第13回地球環境大賞」の大賞(グランプリ)はトヨタ自動車株。第7回に続き2度目のグランプリ受賞です。授賞式での記念講演として張富士夫トヨタ自動車社長から「環境対応こそ企業価値を高める」とするトヨタの環境戦略を聞くことができました。

実行から成果をあげる段階に

「環境対応技術の進展なくして自動車産業の将来はなく、これに成功した自動車メーカーだけが社会から存在を許される」「環境への対応は提案・提起の段階から実行の段階へ、そして具体的な成果をあげる段階へと推移している」「環境対応をネガティブに受け止めるのではなく、企業がさらに成長するためのチャンスとして」「産業界全体が迎えている100年単位の変革期をビジネスチャンスととらえるべき信念が重要だ」...

世界のトップ張社長とは、これまたレセプションで直接話をすることができました。はっきりしたトップ像を張社長から見た気がします。グランプリ、トヨタ自動車株の今回私たちも受賞できたことを大きな喜びと感じています。賞への挑戦、そして受賞は受賞そのものよりも、こうした貴重なすごい交流が何よりの褒美に違いありません。

今回の写真はすべてフジサンケイビジネスアイ日本工業新聞社から提供されたものを使用させていただきました。

「地球環境大賞」のホームページ

<http://www.business-i.jp/eco/>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



4月12日研究会実務者会



会員の(株)アース・グリーン・マネジメントが新設したりサイクルセンターを見学した後、市役所りんご庁舎で実務者全体会が開かれました。

1月に信南サービス株が、3月には(株)トエネック飯田支店が加わり研究会は現在27事業所となっています。また4月の異動で実務者の交替もあり紹介がありました。



「南信州いゝむす21」登録のうち ステップアップしたいは3割

研究会が支援と審査を行う地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いゝむす(E:いゝ, M:む, S:す)21」。2001年10月スタートし、現在までに44事業所が広域連合長の登録証の交付を受けています。年に1回の「取組状況報告書」にあわせてアンケートを行いました。

アンケートでは「活動の成果あり」「責任者・スケジュールを決めている」「環境教育を行っている」「地震等への備え」は8割を超えています。「守るべき法律の把握」は6割。「ステップアップしたい」が3割弱、「行き詰まりを感じている」事業所は2割。

基礎「南信州いゝむす21」に 2つの上位レベルの創設を

「南信州いゝむす21」はこの地域の環境改善の底辺を拓くことを目的とした基礎的なレベルのものです。裾野を広めるには取り組みやすいよ

うにハードルを低くすることが大事。しかし「ステップアップしたい」事業所に今の審査基準より厳しい上位の仕組みを提案する必要があります。そして、最上位として自己宣言レベルを提案していく。地域での自己宣言への結集をはかり、地域全体として審査登録に代わる「透明性」や「客観性」を担保していく仕組みを作っていきたいと考えています。

事務局会議での検討を進め、5月10日の研究会事業所代表者全体会へ提案します。今までもそうであったように、不完全な計画でも、とりあえず動き出すために..。

日本再生の分かれ道「環境力」 加藤三郎さんとの交流会

環境文明21の加藤三郎さんとの交流会が研究会に引き続きありました。加藤さんが事務局長をつとめる「循環社会推進国民会議」のシンポジウムを8月26日(木)飯田で開くことになりました。飯田青年会議所やこの地のNPOとともに研究会も主体的に取り組みます。



「環境力」とは「総合力」

5/26~28 環境自治体会議も

加藤さんのシンポジウムもそうですが飯田の地で環境の会議が開かれるようになりました。5月26日(水)~28日(金)の「第12回環境自治体会議いゝだ会議」の成功も当面の大きな課題です。加藤さんは「環境力は総合力だ」と言います。規模は違いますがポスト、プレ、それぞれの会議をこの地域の環境力を高める機会にしたいものです。



第3はEMS、第4は新エネ省エネ

環境自治体会議2日目27日の分科会のうち第3分科会は研究会の多摩川精機株、第4分科会は同じく研究会の三菱電機株中津川製作所飯田工場を会場に行われます。研究会も2つに分かれて準備と運営に当たります。第3分科会は「地域における環境マネジメントの最前線...自己宣言は有効か?」。第4分科会は「地域共同型エネルギー政策の取り組み...市民発電・節電所・産業振興」。

そして加藤さんとの懇親会

加藤さんとの交流会そして懇親会は研究会だけでなく青年会議所やNPO、商栄会ガーデン3・4の仲間も一緒でした。発足したばかりの太陽光の市民発電NPO「南信州おひさま進歩」も参加しました。日本のトップレベルの普及率を誇る個人住宅への太陽光発電の設置に市民発電という大きな動きが加わります。



先日、ひょうなところで嬉しいことに「ぐるみ通信」が話題になりました。情報発信の大切さとともに責任を感じました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



第12回環境自治体会議 いいだ会議

参加申込が始まりました

いいだ会議のホームページ

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyosho/jitaitaikaigi/index.htm>

申し込みのホームページ

<http://www.knt.co.jp/ec/2004/iida/>

第12回環境自治体会議 いいだ会議を5月26～28日に飯田市で開催します。実行委員会・企画委員会、各5回で準備を進め申込受付がようやくできるようになりました。多くの皆さんのお越しをお待ちしています。

5月26～28日 全体の流れ

1日目 5月26日(水)

午前9:00～12:30 エコツアー(有料)

りんご並木などボランティアガイドが案内

午後 開会・全体会(飯田文化会館ホール)

・受付13:00 オープニング13:15～13:45

人形浄瑠璃「今田人形」公演など

・開会式 13:45～14:15

・イントロダクション 14:20～14:50

環境文化都市・りんご並木・人形劇フェスタ

・基調講演 15:00～16:10

「飯田に学ぶ都市の個性りんご並木」

東京農業大学長 進士五十八氏

・基調討論 16:20～17:40

県知事、平塚、多治見、勝山市長を予定

・自治体会議総会 17:50～18:40

(会員自治体関係者のみの参加)

・交流懇談会 17:50～19:30

分科会ごとのテーブルで情報交換・懇談

2日目 5月27日(木)

午前・午後 分科会(市内10会場)

・午前の分科会 9:00～12:00

・午後の分科会 13:00～17:00

交流会(親睦会) 18:00～20:00

獅子舞など地元芸能と郷土料理で歓迎

3日目 5月28日(金)

午前 全体会・閉会(飯田文化会館ホール)

9:30～11:00

・分科会報告・いいだ会議宣言

・次期開催地あいさつ

午後 オプショナルツアー(有料)

6プログラムガイド、インストラクター付き

環境自治体会議とは

環境自治体会議は環境に配慮した行政の推進に取り組む全国のネットワーク組織です。全国各地74市区町村の規模も地域性も異なるさまざまな自治体が参加しています。平成4年度に組織され飯田市は10年度から参加しています。自治体環境政策の策定と実践の推進や環境に関するネットワークづくりなどを共通の目標として取り組みを行っています。



環境をテーマに自治体関係者はじめ市民、事業者、そして大学や研究機関などが一堂に会して情報交換、議論を深める機会です。平成4年に北海道池田町で第1回目全国会議が開かれてから毎年開催されています。一昨年は秋田県の白神山地、昨年は鹿児島県屋久島という世界自然遺産の地に続き12回目の会議が飯田市で開催されます。

人も自然も美しく 目指す脱温暖化 地域内循環社会をみんなの手で

これがいいだ会議の全体テーマです。このテーマには実行委員会の次のような思いが込められています。

人も自然も美しく...飯田市は「人も自然も美しく、輝くまち～環境文化都市」をめざしています。

脱温暖化...全国にある「小京都」のひとつ飯田市。CO₂等削減の取り決め京都議定書の発効を推進し、身近なできるところから地球温暖化防止に向けて取り組みます。

地域内循環社会...エコタウン地域指定の飯田市。日々の暮らしから産業までもが自然と調和し持続的発展が可能な社会づくりを推進します。

みんなの手で...飯田市のまちづくりの原点は「ムトス(んとす)」という自律的・主体的な精神。自らの行動とともに仲間づくりを行い、住民・事業者・行政が協働して地域ぐるみでの環境改善に取り組んでいます。

27日の分科会は10テーマで

2日目9:00～12:00の第3分科会は研究会の多摩川精機(株)で開かれます。「地域における環境マネジメントの最前線...自己宣言は有効か?」

現地ですべて歩いて体験したりしたうえで、議論を深めるという分科会運営も計画しています。

市民主導での準備と市民活動

これまでの全国会議は行政主導で会議の計画と実施をしてきました。環境問題の解決には地域において行政と市民や事業所などがそれぞれの立場で協働して取り組むことが大切です。いいだ会議では広く公募をして市民主導の実行委員会で開催に向けて準備を進めています。

いいだ会議を契機として実行委員会では4つの市民活動を展開します。この活動はいいだ会議の開催はもちろん、夏の人形劇フェスタ、秋の行楽シーズンなど年間を通して運動を推進していきます。

クリーンキャンペーン(5・7・11月)

ノーマイカーデー

毎週金曜日を自家用車の利用自粛日に

花いっぱい運動

あいさつ運動「おいでなんしょ運動」

今夜も企画委員会が行われました。遠くから飯田の地まで来ていただく皆さんに「大変だったが行ってよかった」と思ってもらえるように、準備を進めています。「いいだ会議」皆さんをお待ちしています。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



毎年のことですが1月行く、2月逃げる、3月去る、そのままです。早3月も半ば、今年度の研究会としての挑戦も残り半月です。53から1か月、少々たまってしまった情報発信を諦めないで精力的に行います。

この1か月の間にさまざまな発表の場がありました。発表は自分たちの取り組みを止まって確認し整理する機会です。そして、多くの人たちと意見交換により、いろいろな見方や角度から見直す機会です。

滋賀県工業技術総合センター

継続的改善セミナー(13)で

3月12日大津市で行われた継続的改善セミナーで、この地域の取り組みを発表しました。今年度最後第13回目のセミナーは滋賀県工業技術開発センターの主催。「地域の環境効率向上を目指して」をテーマに3つの発表の機会をいただきました。



沢柳事務局長ら仲間7人で参加しました。滋賀県事務局の前川昭さんとの縁に感謝します。飯田市役所からの講演「環境文化都市～飯田市の挑戦」に続き、この地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いむす21」の取り組み報告を2つ行いました。

信南サービス㈱「経営改善のドリンク剤」



信南サービス㈱中央道上り線駒ヶ岳サービスエリアの取組発表をする平松賢二さん。

現場のアイデアを積み重ね2年間で水道光熱費1,400万円を削減、そして取引業者の協力を得て行う環境改善活動。活動の工夫として活動内容・結果を全従業員に知らせる活動を全員参加型にする現場で

考えて行動する。市役所の内部監査へ参加し刺激を受け取組を見直したとのこと。

「身の丈に合った活動」は「できるだけ行う活動」ではない。「掛け声だけの活動」ではなく「1人ひとりが何をすべきか自覚できる活動」が「南信州いむす21」本来の姿。

実績に裏付けされ説得力がありました。この信南サービス㈱の徹底した取組、ISO認証取得事業所の皆さん、脅威、驚異ですよ。

ガーデン4「環境から始める商店街の活性化」



ガーデン4(飯田駅前中央通り4丁目商栄会)の取組発表は青山幸弘さんから。

南信州地域の環境改善活動に大きな役割を果たしているのが飯田青年会議所。環境への取組を地域経営の戦略として位置づけています。かつて、いくつかの大型店舗があり集客の努力がさほど必要でなかった中心市街地の商店街。青年会議所の学びを活かす青山さんたちは高齢の経営者との確執も乗り越え、「南信州いむす21」を商店街活性化のツールとして活用しています。

「南信州いむす21」への参加を個店一店一店に呼びかけ商店街・商栄会全体としての活動としています。独自の廃棄物リサイクルは、飲食など会員の要望で、ペットボトルや生ごみにも拡大してきています。ライブには早稲田商店街だと言いつ切ります。

意見交換で「南信州いむす21取組のメリットは?」。「メリットはありません、環境改善はあくまで自発的なもの、メリットは取り組む組織で考えるもの」。2つの事例、このツールをうまく活用している例です。

研究会参加事業所によるグリーン購入などで「南信州いむす21」を一気に広めることもできるでしょう。しかし、一部でISO取得そのものが目的化しているように、ポーズの環境改善は進めるべきではない..。

持続可能な地域づくりに向けた

日本・中国・韓国ワークショップで

2月21・22日、岩手県葛巻町での環境省・持続可能な都市のための20%クラブ・ICLEIなど主催のワークショップでも「地域住民の自発的参加に向けた課題」として発表の機会をいただきました。「温暖化対策を進める地域の社会システムの構築を目指して」が全体テーマ。中村町長の講演のほか中国・韓国から各2つ、2日間で10の事例発表がありました。

開催地の葛巻町は9,000人の人より牛の方が多くミルクのまち。そして風力・太陽光やバイオマスなど日本一の新エネルギー生産基地をめざしています。自治体環境グランプリ03にも輝く、実に元気なまちです。



元気なまちには危ないほど元気な職員がいる。遠く岩手の葛巻町でも感じました。昨年訪れた元気な水俣市でも、そうでした。

新潮流 ISO「自己宣言」を考える



飯田市が進めるISO14001自己宣言について「日経エコロジー」4月号から連載開始です。

初回は自己宣言の全体像です。2回・3回は外部から多くの参加を得た相互内部監査を検証する予定です。

このほか「ISOマネジメント2月号」など様々な機会を通して情報発信をしています。「アイソス3月号」の角田季美子さん、「クオリティマネジメント3月号」の近藤明人さんなど飯田市に来ていただいた方による原稿の掲載も本当に感謝しています。これからも本音の視察・取材をお待ちしています。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機㈱) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



課題を整理そして…

研究会の事務局会議

2月10日研究会の実務者による事務局会議が開かれました。昨年の地球温暖化防止対策環境大臣賞や第13回地球環境大賞「環境市民グループ賞」の受賞など外からの評価が続いています。評価という期待に応えるため課題を整理し解決にむけ具体的にどのように組み立てていくか。地域への貢献・支援という以前に研究会参加事業所のレベルアップになっているか。自分たちの取り組みをもう一度見つめ直す必要があります。



1997年に「地域ぐるみでISOへ挑戦しよう研究会」として発足した当時の6事業所すべてが事務局に入り体制を強化しました。

事務局は多摩川精機株式会社 旭松食品株式会社 飯田市役所・飯田信用金庫・中部電力株式会社飯田支店・株式会社平和製作所・三菱電機株式会社中津川製作所飯田工場 オムロン株式会社飯田の8事業所。

「南信州いむす21」支援

「南信州いむす21」登録証の交付を受けた44事業所でも取り組みレベルの差がはっきりしています。基本的な環境改善活動のものからISO認証取得に耐えられるものまで。

環境改善の裾野を広めるという意味では要求事項の少ない基本的な環境改善活動は大きな意味があります。しかしレベルの違いにより研究会の支援も当然変えていかなければなりません。グループ分けも…。

「南信州いむす21」取り組み事業所はいったい何を求めているのか。何のために取り組んでいるのか。まずは登録済みの44事業所からアンケートをとり問題点を把握します。レベルの違いいくつかのシステム構築も急がれています。同時に研究会が独自に登録する高レベルの「信州

いむす21(仮称)」のしくみ作りも進めていきます。どの程度のレベルにしたらいいか。さらに継続的改善のため登録済み事業所による事例発表や講習会も計画しています。

理想は研究会から言われたり確認されなくても自発的に行えるしくみです。研究会の新しいメンバー信南サービス株式の徹底した取り組みが大きなヒントになりそうです。

脱温暖化の取り組み

温暖化防止に向け研究会では「事業所のための脱温暖化セミナー」などを開催してきました。「EMSに取り組む事業所内での一従業員」から「地域で脱温暖化に取り組む一市民」へ発展させるため具体的に何を仕掛けていくのか。研究会参加事業所の7000人という総従業員を通じて何が効果的にできるかの実験です。

飯田市では2010年までに温室効果ガス10%7.35トンの削減をめざしています。省エネで5%、新エネで5%削減という計画です。研究会として国などからの省エネ・新エネ情報を広く伝えたい。そうした知識を持っているか、持っていないかは大きな違いです。できる・できないは別としても。

環境自治体会議に向けて

全国からの多くの仲間を迎えて5月26～28日この飯田で第12回環境自治体会議が行われます。研究会は実行委員会のメンバーとくに企画委員としてその準備に当たっています。

5月27日の分科会では第3分科会「環境マネジメントの今後のあり方」(PM)の運営を研究会が担当します。研究会の多摩川精機株式を会場にさまざまな視点からEMSの今後を探る予定です。研究会の三菱電機株式会社中津川製作所飯田工場では第4分科会「省エネと新エネルギーの利活用」(AM・PM)が行われます。民間企業が会場、これも飯田らしさです。

2月20日の実行委員会で「環境自治体会議いだ会議」の全体像が決まります。「環境自治体会議いだ会議」はこちらへ。
<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyosho/jititaikaigi/index.htm>

第3回環境首都コンテスト

「環境市民」が現地審査へ

飯田市役所が応募しています環境首都コンテストの現地審査が2月2日にありました。現地審査に訪れたのはNPO「環境市民」のスタッフ4人。このコンテストは自治体の環境施策のレベルアップをめざし全国10の環境NPOが主催しているものです。10年間のうちに「環境首都」に値する自治体を作りだそうとしています。第2回で飯田市は福岡市・仙台市・水俣市に次いで総合4位、人口規模別では1位、さて第3回は。

予算措置も厳しく思うように施策が展開できないなか今年は何位に踏みとどまることができるのでしょうか。新しい環境NPOが16日太陽光発電世帯率日本一の飯田に誕生します。「南信州おひさま進歩」、市民からの出資により太陽光市民発電をめざすNPO。研究会としても支援していきたい。



(NPO「環境市民」が市役所でヒヤリング)「環境首都コンテスト」はこちらです。

<http://www.kankyoshimin.org/jp/activities/ecocity/ecocup/index.html>

研究会が動き始めました。受賞という大きなプレッシャーを動き出すエネルギーに変えて。異業種による研究会、そこでの意見交換は自分の考え方をとても広げてくれます。それぞれの力が同じ目的に向かったときシナジーとして大きな力を発揮します。環境ISOに取り組む私たちは知っています。Plan-Do-Check-Action、不十分な計画でも始めて成果をつかむ方法を。仲間との連携がとても楽しいことを。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



第13回地球環境大賞の 「環境市民グループ賞」に!!



第13回「地球環境大賞」の受賞者発表が2月5日あり研究会は「環境市民グループ賞」に決定しました。この賞は産業の発展と地球環境の共生をめざし環境保全活動に積極的に取り組む企業・自治体・大学・市民グループを表章するものです。大賞にはトヨタ自動車(株)、経済産業大臣賞には王子製紙(株)、環境大臣賞にはセイコーエプソン(株)、文部科学大臣賞にはシャープ(株)、このほか企業の部門賞にはキャノン(株)、(株)滋賀銀行・積水化学工業(株)、エスペック(株)、佐川急便(株)、富士フイルム(株)、優秀環境自治体賞は岩手県・板橋区、優秀環境大学賞は法政大学が獲得しました。

授賞式は4月26日明治記念館で秋篠宮殿下などの参加も得て行われます。一事業所内での環境改善活動ではなく「点から面」「従業員から一市民」へと「地域ぐるみ」での活動が高い評価をいただきました。今後の活動の大きな励みとし研究会活動を大きく動かしていきたいと考えます。

「地球環境大賞」のホームページです。

<http://www.jij.co.jp/eco/index.html>

第2回日本環境経営大賞 「地域交流賞」現地審査へ



(研究会の取り組みをヒヤリング)

研究会は「第2回日本環境経営大賞」の「環境フロンティア部門」「地域交流賞」にも挑戦しています。三重県などで進めるこの賞は環境保全の具

体的な実践活動の取り組みとその成果を顕彰するものです。とくに将来の環境経営の「さきがけ」となる特徴的な取り組みを「環境フロンティア部門」として顕彰しています。

「日本環境経営大賞」のホームページです。

<http://www.eco.pref.mie.jp/kigyoyu/taisyoyu/taisyoyu.htm>

1月27日に賞の審査員をつとめる三橋規宏さんと事務局の皆さんが現地審査に見えられました。三橋さんには前日の26日に地域の仲間の取り組み現場をみていただき多くの貴重なアドバイスをいただきました。



(パチンコダイエーグループにて)

この様子は、三橋さんの「環境コラムSOS!地球号(39)」で詳しく紹介されています。ぜひ次のホームページへもアクセスしてみてください。

<http://www.cuc.ac.jp/~a240129/iso14001/>

南信州いむす21登録

6事業所を加え44事業所に



(広域連合長から登録証の交付)

1月16日には地域で運用しています簡易版環境ISO「南信州いむす21」の登録証が広域連合会議で、つぎの6事業所に交付されました。

日進工業(有) (株)イダサービス (株)いと忠 共和観光(株)チャンピオン飯田店 下伊那郡阿村会事務局 南信州広域連合事務局

～ は「飯沼地区事業所環境保全対策協議会」のメンバーで 自動車整備 和菓子 パチンコ店と業種もさまざまです。 は下伊那郡3

町14村でつくる町村会、はに飯田市が入った「南信州いむす21」登録証を発行する組織です。

2001年10月にスタートさせた「南信州いむす(E:いむ,M:む,S:す)21」の仕組み、2002年3月に4事業所、同9月に3事業所、2003年6月に31事業所とじっくりあせらず計44事業所になりました。

もちろん本物?の環境ISOや審査登録制度のようにはいかず課題も多々あります。しかし、この仕組みを使う、取り組む事業所が足りないところを補いながら工夫して運用しています。身の丈にあった取り組み、裾野をひろげる取り組みをめざすとしたら、細かく仕組みをつくらなくても..。

信南サービス(株)が加入し

26事業所の研究会に



(信南サービス、駒ヶ岳サービスエリアにて)

信南サービス(株)という新しい仲間が研究会に加わりました。飯田市に本社とボウリング場、市外に駒ヶ岳SA、長良川SAのレストランなど70人ほどの企業です。ISO認証取得はしていませんが、それ以上の徹底した取り組みには本当に脱帽です。

賞への挑戦は自分たちの取り組みを外から検証するものです。そして、この地域の環境のブランド力を高めるための情報発信です。2月21・22日には「持続可能な都市のための20%クラブ」などが主催する岩手県葛巻町での日本・中国・韓国ワークショップに、3月12日には滋賀県工業技術総合センターの環境効率向上セミナーで事例発表します。交流も楽しみです。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機(株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



1/23 飯田市役所の 環境SO自己宣言1周年

昨年の1月23日飯田市はこの会場で前夜から降り積もった大雪のなかISO14001「審査登録」から全国自治体で初めて「自己適合宣言」へ移行したわけでございます。その場で私たちは新しい環境方針を発表しすべての職場と職員でISO14001をマネジメントツールとして活用し「環境文化都市」の実現をめざしていくことを確認いたしました。



(あいさつをする田中秀典飯田市長)

移行から1年さまざまな場面での取り組みが注目され取り上げられ水俣市など自己宣言に続く自治体も出始めております。また昨年末に行われました当市の「相互内部監査」には、106人という外部の人の参加をいただきました。

私たちの「自己適合宣言」は本日も多数ご参加いただいております「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」はじめ地元企業や他の自治体に支えられているということを忘れてはなりません。また先週の金曜日には広域連合会議の席で地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いっむす 21」の登録証を6事業所に新規交付し計44事業所が登録を受けたこととなります。地域における環境への取り組みの着実な拡がりを感じております。

飯田市の「自己適合宣言」は組織の内部だけにとどまることなく地域の事業所へ受け入れられ地域全体の活性化につながらなければ「ひとりよがりの実験」で終わってしまいます。

この自然豊かな地域での環境におけるリーダーとしてだけではなく飯田での5月26・27・28日の「環境自治体会議」の開催など全国のリーダーとしての責任を痛感しているところでございます。

毎年1月23日という日を環境だけでなく行政のあり方そのものを見直す日にするをあらためて全職員で確認し挨拶とします。

行政が取り組む環境SO 有益な環境側面を

審査機関 AJA Registrars Ltd. 日本代表の齋藤喜孝氏から「自己適合宣言、その透明性・客観性の確保」と題して運用しているシステムの課題の指摘を受けました。

話は環境マネジメントシステム(EMS)構築の必要性、とくに地方自治体においては「有益な環境側面」の特定が大事である。自己宣言の透明性・客観性の確保には内部監査が重要であり、内部監査員の力量をいかに高めるかが重要ということでした。



(審査員の立場から検証する齋藤喜孝氏)

「有益な環境側面」とは「その実行がそのまま有益な環境につながるもの」「有益な環境影響を生み出すことを検討する行為」。行き詰まった「紙ごみ 電気」を超えるためには業務とは別のISOとしてではなく、それぞれの本来業務の延長で考えるといひ。

納税の口座引落としへのキャンペーン(省資源)、IT導入によるペーパーレス化(省エネ・省資源)、給食の美味しいメニューの研究と提供(廃棄物の削減)など具体的な提案に取り組みがISOから脱け出していなかったことに気づかされました。

外部審査でも望まれることは規格の要求事項を満たしているか否かという適合性審査を超えるものである。経営に役立つ視点に立ち被審査側から考え方を引き出す審査である。

パフォーマンス(実績)は審査のきっかけであり、どの段階がシステム上問題なのかを明確にする必要がある。また審査は初回と定期では指摘の質が当然違う。同じように内部監査もいかに内部監査員や監査の仕組みそのものの質を向上させるかが求められている。

常に地球規模の視点も

外部からの検証にさきだち行われた時事総合研究所客員研究員の小関哲哉氏による「21世紀の環境とエネルギーを考える」研修会。



(地域の企業の仲間や県外からも参加)

世界で起こっている様々な現象について具体的な数値をもとに地球規模の環境の検証をわかりやすく説明。21世紀の最重要資源が石油から水に移行し二酸化炭素の削減で燃料電池やハイブリッドの低公害車が大きな地位を占めていく。

私たちの地域での取り組みも地球環境という情報と知識を基本にしなければなりません。具体的な草の根運動をより広く進めていくうえでも正しく情報を伝えることができなければなりません。ただ「楽しさ」という要素もとても大事ですが..。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi_toshiaki@city.iida.nagano.jp



研究会、今年もよろしく お願いします。



萩本範文 研究会代表

「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」にとりまして昨年は大変意義深い年となりました。何と云っても年末 12 月 7 日の環境大臣表彰です。幕張メッセ国際会議場で開かれた「2003 年地球温暖化防止活動環境大臣表彰式」で対策活動実践部門のひとつとして表彰されたことです。

その表彰式では環境対策車「プリウス」を開発したトヨタや、新幹線営業で電車輸送の効率を高め省エネに貢献した JR 東海など目を見張るような団体が受賞していました。そんななかで私たちが進めてきた地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いむす 21」の意義が理解され、その実践が評価されました。私たちの活動が全国的にも優れたものであるとして評価されたのです。今まで支えてこられた担当者の皆さんに心から感謝し敬意を表します。

しかし、この賞は、研究会の今までの功績に対して授与されたというより、これからの活動に期待を含めて授与されたものでしょう。賞を受けた研究会の役割もますます重くなってきていると感じています。

研究会の大きな活動である「南信州いむす 21」という環境改善活動に「挑戦します」と宣言された事業所は 150 を超え、認証登録された事業所も 44 に及んでいます。

この研究会活動も研究会のメンバー事業所と「南信州いむす 21」に取り組んでいる事業所の従業員の数を合わせると、万を超える人たちの運動に育ってきました。

この取り組みもさまざまな業種に普及してきています。なかでも丘の上商店街の若い経営者たちが地元の閉塞感を何とか打破しようと環境を切り口に「南信州いむす 21」に取り組み始めたことに敬意を表します。大型店舗の進出に反対するときや大売出しのときにだけまとまるのではありません。地道ながら若い力で新しい連携を模索し自分たちの努力でアイデア溢れる新しい道を切り開こうと活動しています。

研究会のもともとの環境改善の取り組みは「点」ではなく「面」に広げる地域運動です。環境マネジメントシステムは一企業の限られた範囲内で取り組んでも本来の環境問題の解決にはなりません。地域の事業所や自治体はその枠を超え連携し「ぐるみ活動」にすることで地域全体がレベルアップします。事業所の社員は家に帰ればみな市民です。ISO の考え方が家庭に伝われば、その取り組みは万を超える草の根運動になります。環境意識の高い街として全国にアピールすれば人や物をこの谷に呼び地域の活性化に必ずつながります。

こうしたコンセンサスが徐々にではあるものの確実に、この街に芽吹いてきたことを実感しています。

環境からみて 2004 年は地球規模で京都議定書の発効の年になるのではないのでしょうか。日本はこの議定書を批准することになりましたがロシアの批准が遅びていて発効には至っていません。しかし、温暖化や温室効果ガス濃度の上昇はそのまま放置すれば近い将来、地球にとって、そして人類にとって重大な事態になることは間違いありません。

京都議定書発効の有無にかかわらずその温暖化や温室効果ガス濃度の上昇を止めることは人類共通の責任であると認識しなければなりません。

特に最大の加害者は先進国であり企業にとっても責任は重大です。

企業の社会的責任 (CSR : Corporate Social Responsibility) という言葉があります。この CSR を全うしなければ企業の永劫的存続はあり得ないのです。また、企業の社会的責任には 3 つの側面があると言われます。(1) 経済的責任 ; お客様への満足、株主へのリターン、(2) 環境的責任 ; 環境負荷低減、環境配慮型商品の開発、(3) 社会的責任 ; 従業員との関係・地域、国際社会との調和。これらをバランスよく、そして継続的に取り組むことが重要となります。

先日、私たちの研究会活動を評価するために千葉商科大学の三橋規宏教授(元日経ビジネス編集長)が来飯されました。その著書「地球の限界とつきあう法」のなかで今の時代の人々は『地球の限界に直面した人類最初の世代』であると定義されています。今を生きる私たちにとって環境問題が猶予のない重要課題であるとの警告です。私たちは未来を敵にまわすのではなく研究会の活動等を通して新しい価値の始まるこの時代をよく見つめ、それを企業活動に取り込んでいきたいものです。

研究会の活動も広く世間に知れ渡るようになり私たちの責任も大きくなってきました。皆で環境改善の取り組みを継続し楽しく元気な地域にしていこうではありませんか。



2004 年 1 月 1 日 飯田市全景

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株)研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所)研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



テレビ放映のお知らせ

15年12月27日(土)

14:00 ~ 14:30

SBC 信越放送

「みんなめざそう環境文化都市」

これは、地球温暖化防止の普及啓発事業として飯田市が環境省の補助を受けて行うものです。3月までに、計4回、飯田市の取り組みをテレビ番組にし、また、ラジオや講演会などを通じて市民をはじめ広く紹介し普及していきます。長野県内の放映ですが、ぜひ、多くの皆さん、観てください。

4回シリーズの第1回となる今回は、「環境文化都市」をめざし、事業所、商店街などで始められています環境改善活動を30分の番組で紹介します。

地球温暖化とは？研究会の取り組み、ISO14001と「南信州いむす21」の取り組みが中心に放映されます。



取材を受ける萩本代表

番組の中で、多摩川精機㈱「南信州いむす21」に組み込む飯田駅前の商店街ガーデン4・3や信南サービス㈱が紹介されます。大掃除の手を休めて、ご覧ください。



12月17日オープンした「エコハウス」は、商店街から出る段ボールやわりばしなどをリサイクルにまわすために保管しておくスペースです。今後の展開が楽しみです。

飯田市役所自己適合宣言

移行1周年の検証

飯田市役所で2004年1月23日、ISO14001の審査登録から自己適合宣言移行1周年となることを機に、「環境とエネルギー問題の研修会」と「外部からの検証」を実施します。

飯田市役所では、自己適合宣言への移行により、なくなってしまった審査登録の役割を、どのような仕組みで担保していくかが大事です。

飯田市の環境マニュアルでは、「経営層による見直し」の中で、移行した1月23日を「外部からの検証」の日として、位置づけています。

とき 16年1月23日(金)

16:00 ~ 18:00

ところ 飯田市役所3階

環境研修会

「21世紀の環境とエネルギーを考える」

講師 小西哲哉氏

時事総合研究所客員研究員

(株)時事通信社元ワシントン支局長

外部からの検証

「自己適合宣言、
その透明性・客観性の確保」



講師 齋藤喜孝氏

審査機関 AJA Registrars Ltd.

日本代表

飯田市役所の自己適合宣言を支えているのは、研究会をはじめとする「相互内部監査」という地元民間企業との連携に他なりません。県内の自治体なども多く、のべ106人参加して行われた今年の「相互内部監査」のまとめは、年明け早々に、ホームページで開示する準備を進めています。

省エネ・省資源の取り組みは、当たり前のもので、政策・施策・事業へこのマネジメントシステムをどのように生かしていくかが求められています。「自己適合宣言」として規格の適合は、前提ですが、その枠を越え、いかに飯田らしいシステムと運用ができるかが課題でしょう。

昨年の移行式同様、

多くの皆さんの参加を

2003年1月23日、飯田市役所で行われたISO14001の審査登録から自己適合宣言への移行式には、飯田市の職員以外にも研究会はじめ多くの皆さんの参加がありました。

とりわけ、2部の講師の齋藤さんは、飯田市の自己適合宣言への移行に当たって、そして、その後の運用について、ずっとアドバイスをいただいていた方です。外部の皆さん立ち会いの中、厳しい目での検証を期待し、楽しみにしています。



今年一年、長野県の南の端から研究会の活動をお伝えしてきました。研究会の組織、「南信州いむす21」の課題、受賞に恥じないものに来年、じっくり取り組みます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機㈱)

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所)

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



環境大臣賞受賞

研究会で報告会祝賀会

12月16日、研究会で「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」の受賞の喜びを分かち合いました。急な設営にもかかわらず、事業所代表者と実務者合わせて37人の参加があり、この受賞を機に活動を再確認しました。



研究会が1997年11月に発足してからの6年間の歩みと今回の受賞の経過について、7日幕張メッセ国際会議場で小池百合子環境大臣から萩本代表が表彰を受けた式典の様子について、事務局から報告されました。

発足時の6事業所から

オムロン飯田(株)寺尾一郎社長
発足当時の言いたしへの事業所として今回の受賞は感無量である。全国レベルでの評価は大変よろこばしい。より多くの人に環境意識を持って行動していただくためにも研究会の役割はますます大きく重くなっている。忙しいと目先のことに追われて大事ではあるものの急がないことには気が回らないことも多いが、環境維持改善・安全には気を抜かないようにしたいものである。

(株)平和時計製作所海野幹夫社長
今年の6月に川越から飯田へ移り、最初に戸惑ったのはごみの分別。大家さんから丁寧に教わり、分別しているうちに違和感なくできる自分自身が変わってきた。会社だけでなく地域全体が環境に取り組んでいる素晴らしいまちを実感している。会社のEMSとQMS同時の更新審査があり、品質は生命線だが、環境はなおざりにする部分が心の中にあるのも事実。経営と直結した形で取組を組み立て直したい。受賞は、研究会としての節目、新たな期待を込めてという意味もある。ホッとせず、地域における先導的な方向性を示していく必要がある。

飯田市 古井武志助役

平成7年度策定の飯田市の基本構想でめざす都市像を「環境文化都市」とし当時はいろいろな意見もあったが、今考えるとピタシであった。それは、市民の毎日の暮らしの中で環境そのものが文化になるというものである。市役所も事業所としてISOを進め、自己適合宣言に移行し、審査登録より厳しいプレッシャーを感じて取り組んでいる。内部監査には研究会中心に100余名が参加、意見をいただいた。市役所という事業所から一步出て、行政として地域全体の環境に取り組むことが今後の課題である。来年の環境自治体会議でも市民・事業者の取組みが誇りである。



誇りと自信を持って

大臣から直に受けるのは初めてで、大変緊張しましたが、研究会皆さんの代表として胸を張って頂戴してきた。この受賞は、事業所を代表する皆さんのご努力ですが、それ以上に、研究会を支えてくれているのは実務を担当する皆さんの活動。この実務者が全国的に、そして環境省に認めていただいたと誇りに思い、自信を持って、今後の活動にも役立てていただきたい。



報告会の最後に萩本範文研究会代表からあいさつです。小池大臣からのお祝いの言葉も参加者に聞いていただき、表彰式の祝賀会での小池大臣とのツーショットも披露。

研究会25事業所7000名、研究会が進める「南信州いいむす21」という新しい仕組みに挑戦しようとかご努力いただいている150の事業所も加えると、数万人に及ぶ運動となっている。

今回の表彰の主たる対象活動というのは、一つには、全くボランティアに企業の皆さんが発案し、それを地域の行政とともに連携して環境運動を仕掛けてきたという実績。もう一つは、「南信州いいむす21」という画期的な仕組みを作り、地域の事業所に普及している実績、と考えます。

とりわけ地域独自の「南信州いいむす21」は、研究会がISO認証取得した後に、私たちの環境運動を地域に広めていこうとすると、ISOはとてもお金がかかる、みんなで取得しようということにならない、ということから生まれたものです。ISOではなく、独自の仕組みを自分たちで作る、「いいむす」というこの地域にも馴染みのある名前を付け、先駆的に企画したことが今回の受賞の大きな要因となったはずで

空中分解?を防ぐ表彰

この「南信州いいむす21」は、研究会にとっても負担となってきており、途中で腰折れするのではないかと大臣が心配され、この辺で賞をやっておかないと空中分解するのではと先読みされたのではと内心考えます。

今回の祝賀会を契機に研究会の総意で、この仕組みを全国に発信できるようにご協力をお願いします。環境自治体会議という全国への発信も、先駆的な市役所の自己宣言も研究会が本気で支えていきましょう。

参加者への記念品は、カードサイズの表彰状、研究会の名にちなんだ「ぐるみ」のキーホルダー、そして4月のカルマル市交流を契機にスカンジナビア政府観光局から届いた「グリーンサンタ」のカイワレの種。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株)

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所)

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



京都議定書発効と 企業の社会的責任

11月28日、東京都港区にある国際連合大学の国際会議場で、「環境を考える経済人の会 21(B-LIFE21 = Business Leaders' Inter Forum for Environment 21:環境問題に積極的に取り組む日本の代表的企業の経営者18人が結成している環境NGO)」
<http://www.zeroemission.co.jp/B-LIFE/>
と国連大学ゼロエミッションフォーラム(ZEF)により、シンポジウム「京都議定書発効と企業の社会的責任」が開催され、基調講演とパネルディスカッションが行われました。



小林陽太郎氏(富士ゼロックス会長、B-LIFE21代表世話人)の基調講演では、最近注目を集めている「企業の社会的責任(CSR)」の中でも、環境への取組みは非常に重要な柱の一つであるとの考えを強調しました。また、産業界にある「京都議定書の温暖化効果ガス削減の数値目標に対する日本企業の競争力低下の懸念」を「京都議定書の発効は我々が果たすべき役割を再認識するきっかけの一つと捉えるべき」と一蹴しました。

企業・市民・政府のコラボレーション

基調講演に続いて行われたパネルディスカッション「京都議定書発効と企業・市民・政府のコラボレーション」では、全パネリストが京都議定書の早期発効を強く訴えました。



コーディネーターの三橋規宏氏(千葉商科大学教授、B-LIFE21事務局長)は「今日のシンポジウムを企画する段階

では、京都議定書が発効していることを前提にしていた。」との苦言を交えながらディスカッションを始めました。

岡部敬一郎氏(コスモ石油会長兼社長)は、京都議定書が1990年を基準にしている



こと、これを逆手にとって批准しないロシアを批判しながらも、「議定書の日も早い発効」と「温室効果ガス削減の日本における達成」の重要性を訴えました。石油産業という、地球温暖化に直結する企業でありながらの熱い語りにも感動しました。



藤村宏幸氏(荏原製作所会長)からは、ゼロエミッション理念の実現のための3大要素は「社会・経済システムの変革」「技術開発」「国民意識の向上」である、とした上で企業に課された課題として技術開発の紹介がありました。また、この中の農業、バイオマスを中心とした社会・経済システムの変革についての具体案を交えた提唱が印象的でした。

地域の活動が全国へ

藤井絢子氏(滋賀県環境生活協同組合理事長)は、食の安全と琵琶湖の環境改善の



ための地道な活動が全国へ展開していった経過などを紹介。菜の花プロジェクトにより多くの地域で循環型社会の形成が始まっています。

将来を見据える元気印 企業は環境でも優等生

日本の環境問題の第一人者でもある加藤三郎氏(環境文明研究所所長)は言い切ります。「各種の「環境」賞の受賞企業のリストを見ると、いずれも「元気印」といわれる企業が並び、元気印の企業は未来をしっかりと見つ

め、未来へ投資する先見性や戦略を有するが、まさに、この経営姿勢こそ環境経営を含む企業の社会的責任の実現には欠かせない。」

また、岡部氏が指摘する京都議定書の問題点を認めた上で、「しかし、改めて



議定書の内容協議をしていけば、地球温暖化問題は取り返しがつかない。」と締め、対応を求めました。

(文中の肩書きはいずれも会議資料抜粋)

ISO 9001&14001統合セミナー

12月8日、飯田信用金庫が研究会との共催という形で「ISO9001 & 14001 統合セミナー」を開きました。ISO9001は2000年の改訂により、主目的が「品質保証」から「顧客満足」にシフトし、様々な業種での取組みが始まっています。



セミナー終了後、情報交換として飯田信用金庫の取組み事例を聞くことが出来ました。紙ごみリサイクル、廃タイヤの取扱いなど、参考になるものばかりでしたが、特に、ISO14001では要求されていない、いわゆる「苦情」の再発防止のための情報の共有についての話しが心に残りました。

飯田信用金庫は、無料で参加できる環境に関するセミナーを年に数回、研究会の事業として位置づけて開催しています。

研究会のみんなで集め、生活と環境まつりでも大人気だった「どんぐり」の残りを、子どもの森公園に植えました。春が来たら、どこに植えたのか探してみてください。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株)

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所)

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



研究会、環境大臣賞に

地球温暖化防止活動で

12月7日、千葉県の幕張メッセ国際会議場で、「平成15年地球温暖化防止活動環境大臣表彰」の表彰式があり、「対策活動実践部門」で小池百合子環境大臣から研究会萩本範文代表に表彰状が授与されました。



表彰状の文面はつぎのとおりです。貴会は地域独自の環境マネジメントシステムの普及拡大など点から面の地域ぐるみでの環境保全実践活動に積極的に取り組まれ地球温暖化防止対策の推進における功績は誠に顕著なものがあります。よって地球温暖化防止月間にあたりこれを表彰します。



5部門、19団体が受賞

「地域ぐるみでISOへ挑戦しよう研究会」の名で1997年11月に6事業所で活動を始めた当研究会。ISO14001や「南信州いむす21」の普及拡大による地球温暖化防止をはじめ、行政と連携し地域ぐるみでの民間主導で展開するボランティアな環境改善活動が評価されました。

この大臣表彰は、1997年12月に開催された「地球温暖化防止京都会議(COP3)」を機に、翌年から定められた「地球温暖化防止月間」の12月に行われ、今年で6回目。

今回は、トヨタ自動車㈱、松下電器産業㈱、㈱ニューオータニ、東海旅客鉄道㈱、富士市、中国同人館など19団体が受賞しました。



これからも頑張っ、小池大臣

ミラノCOP9での追い風に

小池大臣からのお祝いの言葉です。本日、環境大臣賞を受賞された皆様方、おめでとうございます。そして、また、「ご苦労様です」感謝の言葉を申し上げたいと存じます。この環境大臣賞は、文字どおり、「地球温暖化防止」に貢献していただいた皆様方に、環境省として、お礼を申し上げますと同時に、「これからも頑張ってください」という意味を込めての表彰でございます。

「地球温暖化防止」という観点では、ものごと総じて、総論賛成・各論反対ということが、よく起こりがちでございますけれども、この「地球温暖化」に対しては、総論賛成であり、各論も賛成いただいているのではないかと思います。でございます。



この「地球温暖化」に対して、日本がいったい何ができるのか、それを具体的に進めていくためにも、皆様方の技術力、それから行政・団体を含めての組織を上げての実行力、さらには、それを地球規模で繰り広げていただくというグローバル化が必要。今日は、それぞれの部門で、たいへん意義のある、お仕事、そして、ご活動を続けてきてこられた皆様への表彰でございます。

どうぞ、日本として、また京都議定書の

締約国としての責任も負っているわが国でございます。ちなみに、今日、この後、夜に、イタリアのミラノに向けまして、私自身、出発してまいりますけれども、日本という「環境大国」であるべき、その代表として、しっかり物を言っていくためにも、皆様のご活動、小さくても、大きくても、その集大成した「地球温暖化防止」の国としての、取り組みが私に大きな追い風を与えてくれているものと確信をいたしております。

今日を受賞を機に、さらに、研鑽をお積みいただき、大きな活動、さらには、「地球温暖化防止」先進国日本を創り上げてくださいますように、これからも、ご協力のほど、よろしく、お願いを申し上げます。

地球温暖化対策地域推進全国大会

環境大臣も参加しての受賞者の懇親会に引き続き、温暖化防止センター、推進員の全国大会が開かれました。主催者の挨拶、山本良一氏の基調講演、経済界、地域からの取り組み発表があり、アトラクションでは、ものまねのツートン青木さんが参加者の肩の力を抜いてくれました。



参加者とともに歌った「環のくらし」の替え歌「心のこり」、歌い上げてみてください。

私バカよね おバカさんよね 温暖化 温暖化 言われても ストープエアコン 汗をかくほど つけてきたのよ 今日まで 秋風が吹く 私の部屋で 鍋が楽しいように 私もスイッチ切るわ 明るく環のくらし

全国センターの三橋規宏議長は、「99対1の原則」を強調。100人の住む世界を変えるには、まず1人が、それも他の誰かではなく、あなた自身が変わらなければならない。あなたが変わることで「99対1」の世界ができ、やがて「90対10」になると、新しい風が吹き、世の中は確実に変わり始める。

【ご意見、お問合せ】 【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機㈱)

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所)

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



研究会と7人から始めた、

飯田市の相互内部環境監査

10月31日から11月26日までの約1か月間、飯田市役所の環境マネジメントシステム(EMS)の「相互内部監査」が行われ、研究会から今年も多く仲間が参加しました。



組織内だけの内部監査に組織外からも参加するという「相互内部監査」は、出向・受入の双方が、お互いのシステム改善とレベルアップにつなげることを目的としています。飯田市役所の「相互内部監査」は、2001年に研究会の7人が参加して始まりました。翌2002年には「研究会をはじめとする地域の事業所」や「県環境ISO自治体ネットワークの自治体」からのべ71人の参加がありました。

3年目、のべ106人が参加

研究会から16事業所のべ40人



3年目となる今年の飯田市役所の「相互内部監査」には、のべ106人の「相互内部監査員」が被監査側34課・室と事務局(2班)のすべてに参加しました。研究会からは、25事業所のうち16事業所、のべ40人が参加し、27部署を監査しました。

(株)アース・グリーン・マネジメント / 旭松食品(株) / 飯田TDK(株) / 飯田商工会議所 / 飯田信用金庫 / オムロン飯田(株) / 化成工業

(株) / 木下建設(株) / 多摩川精機(株) / 中部電力(株) / 南信共同アスコン(株) / (株)原鉄 / パチンコダイエーグループ / (株)平和時精機製作所 / 盟和産業(株) / 吉川建設(株)の16事業所です。

「相互内部監査員」は、ISO14001をはじめEMSに取り組む研究会や地元事業所の担当者、県内の自治体担当者が中心です。今年も、県外からも、東京都庁、所沢市役所、中津川商工会議所の担当者、さらには、審査機関の主任環境審査員らも参加しての相互内部監査となりました。

地元事業所から伊坪ビジネス(株) (株)開発技研、信南サービス(株)、安平建設(株)のほか、信越放送(株)(本社 長野市)の参加もあり、EMS、相互内部監査の輪の広がりが確かな手応えとして感じられます。

事務局のシステム監査には

10組織 15人が参加

1月23日の「全国自治体で初めての試みとなるISO14001審査登録から自己(適合)宣言への移行」後、初めての内部監査ということで、関心と注目を集めた内部監査となりました。



11月21日、環境管理責任者・事務局の監査が、2班に分かれて行われました。6自治体・4民間企業から15人が監査に当たりました。

「相互内部監査」は、もちろん受け入れる側の飯田市役所にとって「外の目」としての効果の方が大きいでしょう。組織の中では「当たり前」と勘違いしていることも意外に多くあるものです。いい緊張感の中で交わされる質問や指摘、そして「相互内部監査員」の何気ない「ひとこと」がとても大きなものとなっています。

参加者からは、「自社の活動に生かせる」「記録の整理を参考にしたい」

「内部監査の手法が勉強になった」などの声が聞かれました。

不適合と継続的改善

5年近く取り組んできた飯田市役所のISO14001ですが、当然のことながら、「不適合」はなくなり、指摘を受けた部門の課長の顔は、やはり明るくありません。

「不適合は継続的改善への少ないチャンス!」「不適合は、システムのどこかに原因があるはず」「不適合はシステム改善に不可欠」。組織全体がこのようにとらえられる日は遠いのでしょうか、近いのでしょうか。

被監査部門は何も取りつくるわず、監査チームも指摘することを何ら遠慮しない、そんな内部監査にしていきたいと強く願います。

視察を機に交流が続き、今回遠くから参加のあった所沢市役所でも、「不適合」「是正」などの言葉の見直しについて検討しているそうです。いい表現、期待しています。



継続的改善の壁にぶつかっていませんか?取組みや内部監査のマンネリ化に悩んでいませんか?研究会として、「相互内部監査」の「相互」の呼びかけをし、この仕組みの拡大を目指しています。まずは、それぞれの組織のレベルアップを、つぎに相手のレベルアップを、そして、この地域全体のレベルアップをめざして..。

~~~~ お詫び ~~~~~

ぐるみ通信 44「発足時6事業所代表者会」の記事中、6の事業所名にオムロン飯田(株)が漏れていました。申し訳ございませんでした。謹んでお詫びし、訂正させていただきます。

【ご意見 お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機(株))

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭(飯田市役所)

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)





## 企業における脱温暖化セミナー

11月19日16時から、飯田市保健センターで、研究会主催の「企業における脱温暖化セミナー」が、関連する事業所担当者の参加も受け、開かれました。講師は、環境自治体会議環境政策研究所の角田季美枝さんとNJC主任環境審査員の山本芳華さん。角田さんからは、PRTR法の情報公開というコミュニケーション、山本さんは、エコアクション21などの地域版やISO14001改訂を中心に講義を受けました。私たちは「地域ぐるみ環境ISO研究会」らしく、脱地球温暖化のために環境ISOを活用して、企業が出来る役割について、一緒に考える機会としました。



環境意識の高い企業ほど、CO2関連の目標を設定・運用している傾向があることが、JAB(日本適合性認定協会)の「地球温暖化問題と環境マネジメントシステム調査報告書」(全100ページ)<http://www.jab.or.jp/>にもありました。効果が見えにくい温暖化問題に直接、取り組むことは難しいものです。展開中の地域独自EMS「南信州いむす21」の普及により、環境改善の裾野をひろげることが私たち研究会の役割でしょう。



講師にお願いした山本さん、角田さんは飯田市役所のISO14001自己適合宣言移行後、初めての相互環境内部監査にも監査員として参加してくれました。人と人の輪、ネットワークの広がりを感じます。

## 発足時6事業所代表者会



11月20日、研究会の萩本代表の呼びかけで、研究会発足時の6事業所代表者の皆さんが集まりました。「地域ぐるみでISOへ挑戦しよう研究会」として、1997年11月発足時の、多摩川精機株、旭松食品(株)飯田工場、(株)平和時計製作所(株)、三菱電機(株)中津川製作所飯田工場、そして飯田市役所の6事業所の代表者です。

研究会の「南信州いむす21」はじめ活動が、この地域だけでなく、全国的にも、注目され評価されてきています。それぞれの事情があり、代表者も替わりましたが、あらためて研究会発足時の熱い思いで関わることが確認できた気がします。

## 点でなく面でやる地域運動

地域の事業所、自治体がその枠を超え、連携して「ぐるみ活動」を展開することにより、地域全体がレベルアップする。ISO、環境マネジメントシステムの考え方が家庭に伝われば、その取り組みは、万を超える草の根運動になる。そして、環境意識の高い街として全国にアピールできれば、人や物をこの谷に呼び、地域の活性化につながる。「環境問題は、点でなく面でやる地域運動」、それが研究会の一貫したコンセプトです。

自由意志による研究会への入会・脱会ですが、丸6年の間には、6事業所が去り、今年10月には飯田商工会議所が加わりました。研究会の名称も変え、現在は、様々な業種、規模の25事業所が参加し、従業員は会全体で7,000人となっています。

課題ももちろん多く、大きくなってきた研究会です。いろいろな試みで少しずつ解決していくつもりです。

## 品質・環境ISO統合セミナー

研究会メンバーの飯田信用金庫が企画する次のセミナーを、前回と同じく研究会が共催して行います。

日時 12月8日(月)

午後2時～4時

会場 飯田信用金庫本店4階会議室

内容 ISO9001&14001の統合

- ・経営目標を必達する仕組みとしてのマネジメントシステム
- ・品質向上のためのISO9001
- ・環境保護のためのISO14001
- ・品質・環境のISO規格を充足する統合システムの構築

講師 (株)Tマツ環境品質研究所

甲信越支店長

星野雄滋氏

費用 無料

友人から1冊の本が送られてきました。PHP研究所の「カサンドラのジレンマ」、副題に「地球の危機、希望の歌」とあります。太陽神アポロンは、愛を勝ち取るため、トロイ最後の王の末娘、美しいカサンドラに、「未来を見る力」を受けましたが、愛が得られず、激怒し、「誰も絶対に彼女の予言を信じない」という呪いで残酷な復讐を…。環境に取り組む多くのカサンドラの皆さん、年末の忙しい時期ですが、読んでみませんか。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株)

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭(飯田市役所)

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)



## 市の「生活と環境まつり」へ

11月8～9日、飯田市県体育館・県文化センターを会場に開かれた飯田市の「生活と環境まつり」に今年も研究会として出展しました。活動の紹介だけでなく何か楽しいことをしたいと昨年は拾い集めたどんぐりを配り、その残りを公園や企業敷地に植え育てています。さて、今年は、集めたどんぐりを配るだけでなく、それで工作をしてもらうコーナーに。小枝や輪切りの木と組み合わせ、すばらしい作品が次々と誕生しました。



テーブルには昨年植え若木に育ったどんぐり。クヌギ、ミズナラ、スダジイ、マテバシなどいろいろな大きさや形のどんぐりが自由な発想で動物や花や遊具に変身です。



参加した親子はもちろん、研究会スタッフが工作にもう夢中。親子でのどんぐり拾いから事務局での輪切り材の準備など、当日前の仕込みもしっかり楽しめました。人を楽しんでもらうには、まず自分が楽しむこと。教え込むのではなく、実際にどんぐりに触れ、何よりも興味を持ってもらうこと、環境の大切さを伝えるにも同じ..。



## 北野大さんの新エネ講演会

まつり初日の午後は、「北野大(まさる)と森呼吸(しんこきゅう)」と題した新エネ講演会でした。新エネルギー財団などの事業として実現したこの講演会、北野さんの人気は予想どおりでした。弟タケシさんの話などの笑いの中、エネルギーの歴史を分かりやすく説明してくれました。

森呼吸(しんこきゅう)は、この地域の豊かな自然を意識しようと昨年から引き続いているテーマです。会場ほぼいっぱいの520人の参加者は、年輩の人が多かったものの、北野さんの話をしっかりメモするなど、この地域の熱心な体質を感じました。

## 枚本育生さんを招き

## 脱地球温暖化シンポジウム



二日目午後には、NPO環境市民の枚本育生さんの講演と市民2人の事例発表によるシンポジウムが行われました。ガマンの生活の強要でなく、広い間口と低い敷居、入りやすい行動の提起の大切さを学びました。

## 相互環境内部監査まっ最中

3年目になる飯田市の「相互環境内部監査」が研究会事業所をはじめ組織外の多くの参加を得て行われています。21日に事務局監査のある17日の週がピークですが、今年

は、東京都や所沢市など県外の自治体や審査機関の主任審査員の参加も得て運用とシステム検証が行われています。地域の仲間と行うこの実験、お気軽に監査・見学に来てください。

## それぞれのチャレンジが



11月2日には、飯田青年会議所の11月例会が「地域未来戦略フォーラム」として公開され、トヨタ自動車の環境経営戦略に学び「地域環境戦略と未来の姿」と題したパネルディスカッションが行われました。環境協栄、これからの大きなテーマです。

研究会も企画委員・実行委員として深くかかわる「環境自治体会議いいた会議」(来年5月26～28日)も、全体会・分科会のテーマがしばらくきています。この地域の環境でのステップアップにしたいものです。

飯田駅前の商栄会「GARDEN4」では個店の取組項目の研究など「南信州いむす21」の取り組みも少しずつですが確実に進んでいます。

11月19日には、脱温暖化のための研究会主催の勉強会を開き、また、研究会の体質強化のため、トップによる検討会も予定されています。

「南信州いむす21」のシステム改善や支援体制の強化など、研究会が取り組むべき課題は多くあります。しかし、研究会の取り組みを外の目から検証するために、いくつかの賞へチャレンジしています。「有言実行」、外に向かって夢やビジョンを語り、現実の取り組みをそれに近づけていく努力を仲間と続けていきたいと考えます。霜が降り始め、リンゴにも密が入り始め..。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株)

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭(飯田市の役所)

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)





## 「環境自治体会議」飯田会議 スタート! 第1回実行委員会



(環境自治体会議飯田会議の実行委員会)

来年の5月26~28日、飯田市で開かれる第12回環境自治体会議の第1回実行委員会が市役所で開かれました。全体の実行委員会は5回を予定、この全体会に提案するための企画委員会(5人)には研究会の沢柳事務局長が選ばれました。会議全体・分科会のテーマ、助言者・発表者、ポスターなどで「飯田らしさ」を市民参加で年内に作り上げます。



(松島信雄さんが飯田会議実行委員長に)

応募のあった市民や各種団体など約50人の委員の中から、実行委員長に選ばれたのは平和時計製作所(株)顧問の松島信雄さん。私たちの研究会を「地域ぐるみでISOへ挑戦しよう研究会」の名で社長(当時)として、萩本範文代表らとともに立ち上げました。

## 事務局会議、実務者全体会



9月29日、事務局会議が開かれ、研究会の具体的な課題と今後の進め方について意見交換がされました。

この地域で拡がりみせる独自のEMS「南信州いむす21」ですが、広域連合長による登録証ができない。この地域外にある事業所を研究会として支援できないか、そのためのシステムづくりも検討されました。

運営を検討する研究会の実務者会は、10月22日、中部電力(株)泰阜ダム・発電所、系統運用センターの見学をした後、飯田支店で開かれます。

研究会では今年も「生活と環境まつり」(11月8~9日)に出展します。昨年は配っただけの「どんぐり」でしたが、今年は、もう少し遊びを加えた工作コーナーを計画しています。事務局では、10日にも、山から運んだ間伐材を切るなどの準備作業です。

## 今年も、相互環境内部監査

飯田市役所のISO14001審査登録から自己適合宣言移行の大きなきっかけとなりました研究会の「相互環境内部監査」が今年も10月31~11月26日、市役所でスタートします。

事業所の内部の人で行う「内部環境監査」をオープンにして、中の人では気づかないシステムや運用の問題点を外部の人の目で補うものです。地域全体の監査手法やシステムのレベルアップをめざすことも目的です。



(昨年の飯田市役所事務局相互内部監査)

昨年の飯田市の相互内部監査は、研究会20事業所20人を含め、49組織74人の参加で行われました。研究会では、昨年、多摩川精機(株)アスガリン(株)でも内部監査をオープンにしましたが、今年は、より多くの事業所が受入を検討しています。

飯田市役所では、すべての内部監査をオープンにし、多くの外部の方の参加を呼びかけています。

## 10.31~11.26 飯田市役所 相互内部監査へ参加を

今年の監査日程は「飯田市ホームページ」「環境情報」「環境マガジン」に載せてあります。

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyo/iso/15naikankokuti.htm>

お気軽に飯田市役所のシステム・運用を、監査・見学してください。

「相互内部監査」は、県内の自治体とのネットワークでも昨年からは始まり、今年も9月26日に長野市役所で行われました。10月15日上田市役所、10月28日高遠町と続きます。視察などで飯田に来ていただいた皆さんには、参加をお願いし、主任審査員、遠く県外の自治体の方からすでに参加の申し込みがあります。環境マニュアルは、ホームページで出力できますが、今、事務局では「改正」準備が進められています。



(今年の長野市役所での相互内部監査)

## 飯田商工会議所が研修会

全国6番目に認証取得した飯田商工会議所が研究会に参加することになりました。啓発事業として会議所は、10月21日14~16時、環境技術開発センターで環境ビジネスの市場動向と企業戦略の「環境ビジネスセミナー」を開きます。多くの参加を。

来週には「南信州いむす21」に取り組み始めた飯田駅前の商栄会GARDEN4と3が個店の環境の取り組みを検討します。いかに「その店らしい」楽しい取り組みが設定できるかが継続のカギとなりそうです。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機(株))

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭(飯田市役所)

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)



## 代表者会で研究会を見直し

9月11日、市役所りんご庁舎で「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」代表者全体会が17事業所31人の参加で開かれました。前回3月のこの会で実務者による検討を指示していた研究会の組織・運営の見直しについて、結論を出し、方向づけをしました。

9月末までに研究会への参加・不参加の意思表示を行う(今後も年度末に行う)年度を9月から8月とする年間スケジュールを固定の分科会ではなくグループや担当で実行する研究会本来の研鑽の場として実務者の会議を充実する法令や監査技法など研修会とともにイベントも設定する、ことにしました。



(事業所代表者全体会)

1997年11月、6社で発足した当研究会。ゆるやかな組織として参加事業所も増え大きくなりましたが、自発的であるとはいえ、はじめ、責任ある参加も求められます。また、新たな参加も呼びかけていきます。

## 「南信州いいむす21」は

地域独自のEMS「南信州いいむす21」のレベルについては、少しでも環境を意識した事業所を増やし、裾野を広げる目的で、原則として現在のままとします。しかし、継続的な改善を無理なく図るため、研修会への参加や相互の事業所見学の実施などの条件を順次加えていきます。

取組事業所数の増により、研究会の支援の負担が大きくなってきています。地域に受け容れられるほど、その負担は大きくなります。取組事業所を1事業所ごとではなく自主的なグループで支援ができるよう、支援にかかる力を分散していきたいと考えています。実際には、もっとレベルを落とした仕組みや支援も必要なのではないでしょうか。



(萩本範文 研究会代表)

現在の「南信州いいむす21」とは別に、研究会が独自に支援・認定するレベルの高い仕組みを事務局を中心に研究することとしました。

そのひとつは、長野県環境保全協会の「エコアクションながの」、環境省の「エコアクション21」との相互認証ができる程度のレベルです。

もうひとつは、ISO14001の要求事項にさらに「相互内部監査」や「システム全体の公開」など透明性・客観性の要素を加えた自己(適合)宣言レベル。せっかく認証取得し維持しているシステムも何らかの理由でやめる事業所も予想されます。飯田市役所の自己適合宣言をはじめとして地域における新たな取り組みを維持・継続するための仕組みを考えます。

## 「南信州いいむす21」マーク決定

「いいむす」は、環境マネジメントシステム「EMS」をE(いい)M(む)S(す)と読んだものです。決定したマークは、「EMS」をあらわし、赤の「E」は太陽、緑の「M」は山そして南信州のM、青の「S」は川・水です。脱地球温暖化を地域ぐるみで協働して進めるため、太陽光発電や木質バイオマスなどの新エネルギーを活用し、自然豊かな南信州地域のかけがえのない環境を守っていきます。



(「南信州いいむす21」マーク)

## 2商栄会75店が取組宣言

研究会の検討にさきだち、「南信州いいむす21」の取組宣言書が2つの組織から提出されました。JR飯田駅前から続く2つの商栄会、「GARDEN4」と「GARDEN3」です。「ガーデン4」63店中51店と、「ガーデン3」27店中24店の名簿をつけた取組宣言書が2人の代表から、研究会の萩本代表に手渡されました。商栄会全体で取り組む廃棄物のリサイクル活動、そして個店での取り組みへの普及と、無理のない取組目標を設定してあります。環境を切り口とした商店街の活性化への挑戦です。



環境方針は、次のとおり。「私達は、商店街として単に商業ベースでモノを売るだけでなく、この地域に暮らす人達と共に、「人・環境」に優しいまちの創造を行います。」

2つの商栄会、この取組宣言書の提出までには、何回もの打ち合わせ、勉強会、個店への説明など多くの道のりがありました。様々な業種の店で構成されている商店街、一気に進めるのではなく、楽しいイベントも含めながら、研究会もいっしょになって地域というまとまりでのモデルにしたいものです。



(取組の始まったGARDEN4)

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株)

[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭(飯田市役所)

[kobayashi\\_toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi_toshiaki@city.iida.nagano.jp)